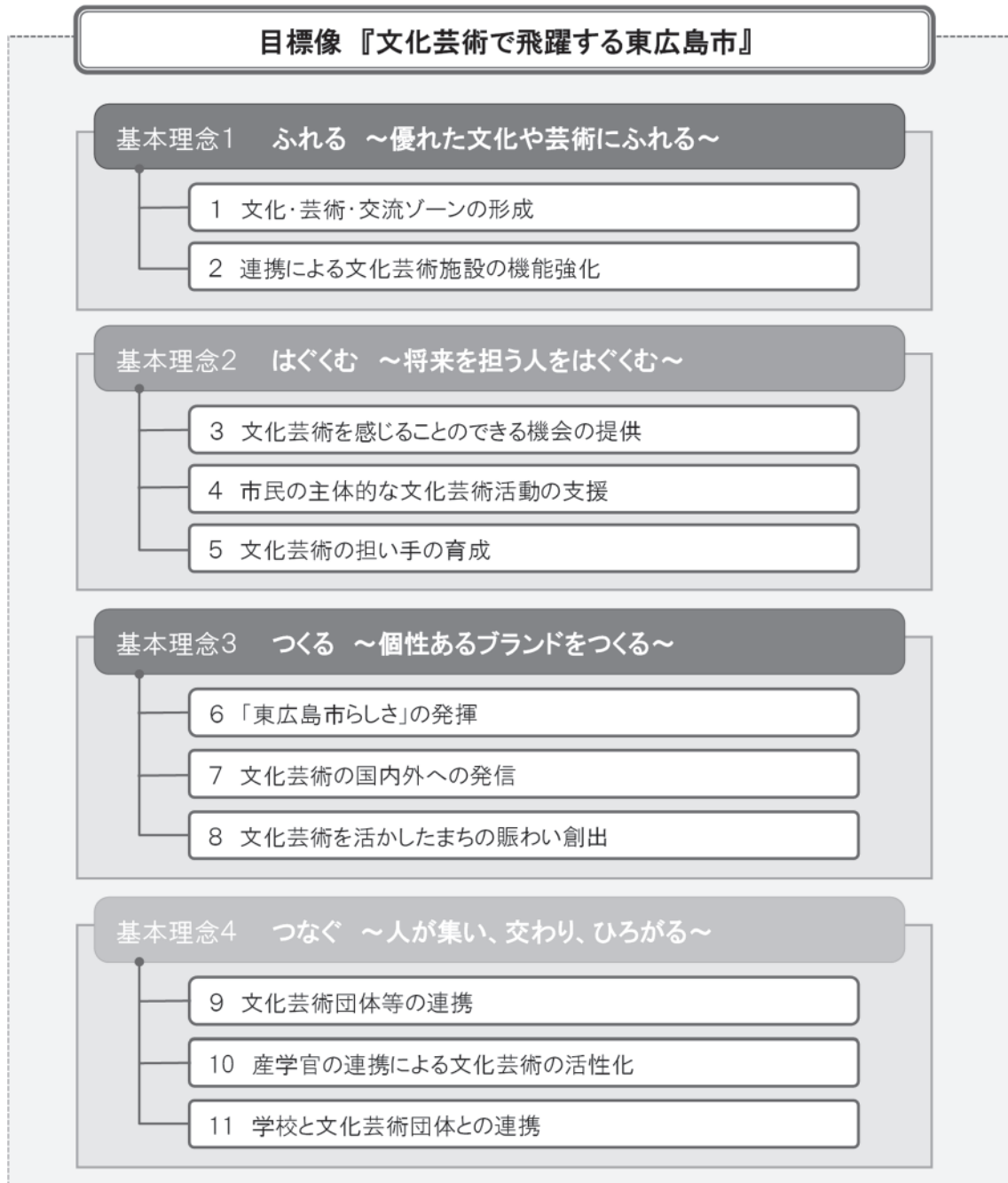


第4章 文化芸術振興のための施策の展開

基本理念と基本方針に基づき、以下のような施策を展開する。



基本理念1 「ふれる ～優れた文化や芸術にふれる～」の展開

1 文化・芸術・交流ゾーンの形成

(1) 中核的施設の整備

文化芸術の振興を推進していく上で、市民の文化芸術活動や情報発信等の中心的役割を担う文化芸術施設が不可欠です。東広島芸術文化ホール「くらら」に並ぶもう一つの中核的施設として、市中心部に建設が予定されている新しい美術館の整備を推進していきます。



(2) 文化・芸術・交流ゾーンにふさわしい周辺環境の整備

文化・芸術・交流ゾーンが、文化芸術を育む雰囲気をつくり、日々の暮らしの中に文化芸術を感じられるよう、ゾーン全体の魅力づくりを進めます。

このため、中核的施設である「くらら」と新美術館の間に位置する西条中央公園やブルバール歩道等への屋外芸術作品の設置、街灯や植栽等の高質化を図り、風格ある路上景観の形成に努め、アート空間としての活用を検討します。

また、ベンチ等を設置して休憩スペースを設けるなど、周辺環境を整備するとともに、フリースペースやオープンスペースなどを柔軟に活用し、地域の祭事やフリーマーケット等、市民による賑いイベントの実施等を検討し、市民が安らげる憩いの空間づくりとしての整備を進めます。

2 連携による文化芸術施設の機能強化

(1) 中心市街地における連携

文化芸術施設の機能を強化するため、市内の文化芸術施設の連携による事業の実施や、広報宣伝の共同企画・制作を推進します。

特に、中核的施設である「くらら」と新美術館では、積極的な連携事業などを推進し、利用料金の相互割引など、施設の利便性を向上させるサービスの導入を検討するなど、施設の魅力向上を図っていきます。

その他、両施設の利用者に対する周辺の商業施設等での割引サービスの導入や、観光施設も含めたゾーン内の様々な施設間での駐車場の相互利用システムの導入等を検討し、ゾーン全体の利便性の向上を検討します。

1

文化・芸術・交流ゾーンの形成

2

連携による文化芸術施設の機能強化

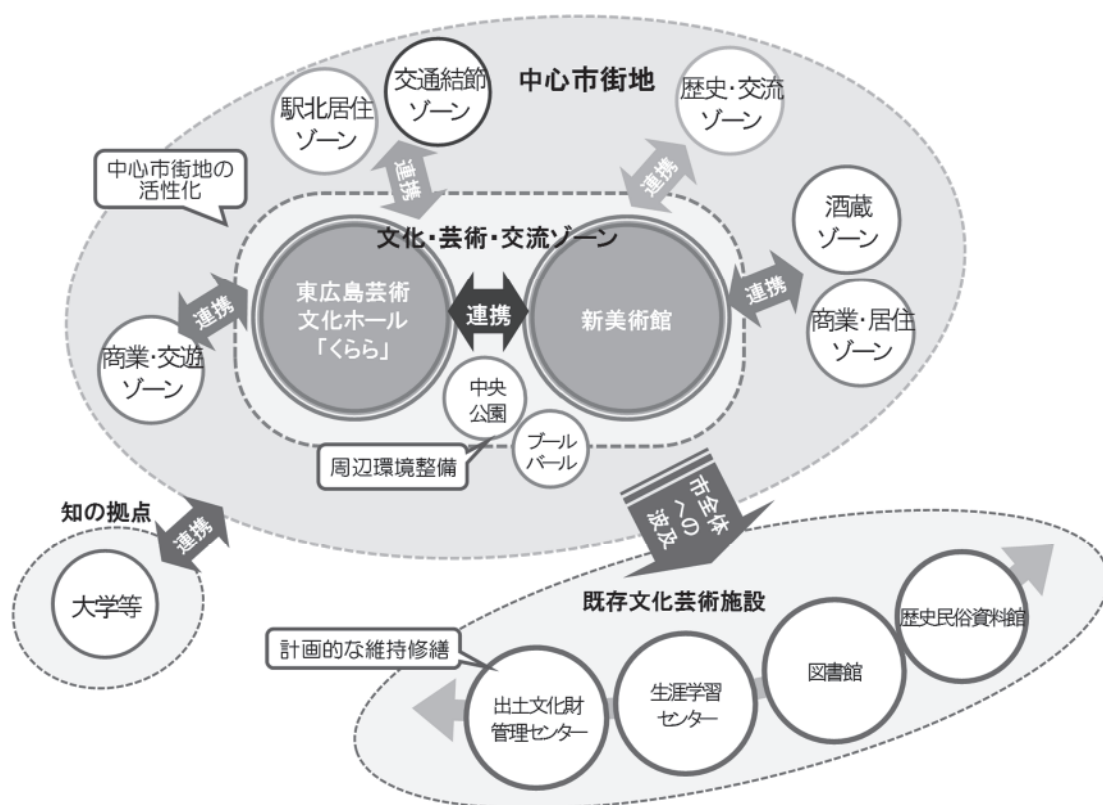
また、酒蔵ゾーンや歴史・交流ゾーンをはじめとした、中心市街地の各ゾーンとの連携事業にも取り組み、中心市街地全体の活性化を図ります。

(2) 中心市街地等と周辺との連携の促進

中心市街地等の中核的施設と周辺の文化芸術施設やメディア等において、広域的な連携による展覧会や活動発表会などの共同開催、一体的な情報発信などに取り組み、各施設単独では難しい、多様な事業展開の推進を検討します。

また、多くの文化芸術団体の活動の受け皿となっている各地域の生涯学習センターや歴史民俗資料館などの既存の文化芸術施設においては、中心市街地等の中核的施設との連携を見据えた利用しやすい施設のあり方を検討するとともに、中長期的な視点に立った計画的な維持修繕を行います。

【文化芸術の発展を支える環境づくりのイメージ】



基本理念2 「はぐくむ ～将来を担う人をはぐくむ～」の展開

3 文化芸術を感じることでできる機会の提供

(1) 市民の文化芸術に対する意識の高揚

市民による主体的な文化芸術活動の裾野を広げるためには、市民一人ひとりの文化芸術に対する意識の高揚を図ることが必要です。

このため、「文化芸術の日」の創設や市民主体の「市民文化祭」の開催、著名な芸術家を招いた文化芸術講座の開催など、市民が日常生活の中で、気軽に文化芸術を感じ、意識することでできる機会を提供することが考えられます。

(2) 市民の文化芸術の鑑賞機会の充実

市民の多様なニーズに応じた、きめ細かな鑑賞機会を提供し、文化芸術を鑑賞する機会の充実を図ります。

生涯学習センターなどの身近な文化芸術施設における鑑賞事業や、酒蔵等の民間施設と連携した「まちなか美術館」の開催のほか、企業等と連携した全国レベルの鑑賞事業の実施等により優れた文化芸術に接する機会を充実させることが考えられます。

また、子どもたちの豊かな感性や情緒を養うとともに、文化芸術に関わる人材の裾野を広げるため、子どもたちが文化芸術を感じることでできる鑑賞機会の拡大を検討します。

4 市民の主体的な文化芸術活動の支援

(1) 市民の文化芸術活動の促進

市民一人ひとりが積極的に文化芸術活動を行うことは、市民の心の豊かさを育み、生活を豊かなものにするとともに、市全体の文化水準を高め、都市としての魅力の向上にもつながります。

市民による文化芸術活動に対する支援事業を推進し、市民が主体となって行う文化芸術活動の更なる活性化を図るとともに、こうした活動を顕彰する仕組みを検討していきます。

(2) 地域コミュニティにおける文化芸術活動の促進

多くの市民による文化芸術活動は身近な場で行われており、地域コミュニティ単位で文化芸術活動を促進するという視点を持つことも極めて重要です。

文化芸術をテーマとした地域活動に対する支援など、市民との協働により、文化芸術を活かした地域コミュニティづくりを推進するとともに、生涯学習センターなどの身近な文化芸術施設における鑑賞事業、町内会行事など地域へ出向く文化芸術事業の実施を検討し、地域コミュニティ単位での文化芸術活動の促進に努めます。

5 文化芸術の担い手の育成

(1) 文化芸術活動の発表機会の充実

文化芸術活動に取り組む市民を増やし、市民の文化芸術活動への意欲を高めるため、文化芸術活動の成果を発表する機会が豊富にあることが重要です。

本市では、これまでも生涯学習センターにおける活動発表会や市美術展、各種イベントでの発表会等、市民が様々な形で文化芸術活動を発表することのできる機会を提供しており、このような機会の充実を図ります。

(2) 子どもの文化芸術活動の充実

文化芸術に興味を持つ子どもを育成し、将来の文化芸術に関わる人材の育成へつなげるためには、学校教育における文化芸術活動の充実など、子どもたちが文化芸術を感じることのできる機会を増やすことが重要です。

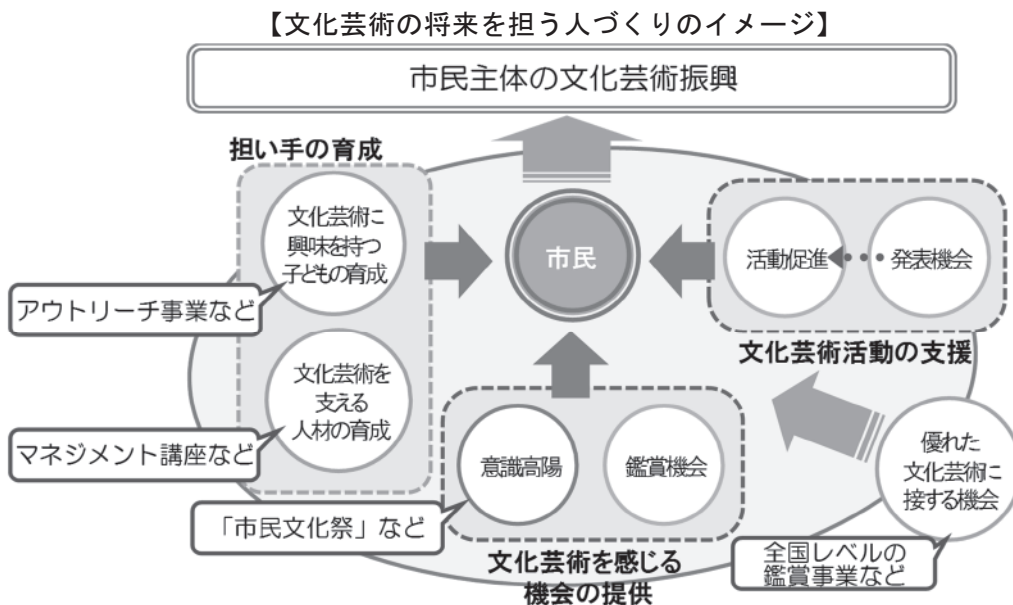
本市では、これまでも出前美術館、出前博物館、音楽普及啓発事業、夢・感動推進事業等のアウトリーチによる文化芸術の学習機会や「一校一和文化学習」を通じた伝統文化に関する学習機会を提供してきました。今後もこうした活動を継続的に実施するとともに、多分野への展開を図ります。

また、鏡山城跡や三ッ城古墳などの歴史文化資源や本市に集積する試験研究機関等とのつながりを視野に入れた科学文化などについても、学校教育の場を活用した事業の継続または実施を検討します。

(3) 文化芸術活動を支える人材の育成

文化芸術の振興・発展を図る上では、文化芸術活動を支える人材の育成も不可欠です。

このため、文化芸術団体の活動に関するマネジメント講座の実施など、文化芸術施設や団体を運営する人材や文化芸術事業を企画・制作する人材など、文化芸術活動を支える人材の育成を検討する必要があります。また、これらの人材のデータベース化などにより、情報の共有と活用を図ることを検討します。



基本理念3 「つくる ～個性あるブランドをつくる～」の展開

6 「東広島市らしさ」の発揮

(1) 地域の歴史・伝統文化・産業等に対する意識の高揚

地域の歴史や伝統文化、産業等の資源を文化芸術振興へ活用していくためには、市民一人ひとりがその価値を理解し、保存や次世代への継承への意識を高めることが重要です。

このため、文化財を利用したコンサート・講演会や出前講座など、市民が文化財や伝統文化について学習する機会の充実を図ります。

また、学校教育においても「一校一和文化学習」などを通じて、子どもたちが地域の歴史や伝統文化、産業等を学習する機会の充実を図ります。

(2) 地域の歴史・伝統文化・産業等の継承と活用

地域の歴史や伝統文化、産業等の資源は、地域の貴重な財産として次世代へと継承していくことに加え、観光等の資源として有効に活用することにより、その価値を一層高めることができます。

このため、市民や関係団体による案内看板、ベンチ等の環境整備の支援や「文化財をめぐるツアー」など、歴史や伝統文化、産業等の資源を市内外へ積極的にPRする事業の充実を図ります。

また、ユニークベニュー（歴史的建造物、文化芸術施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと）としての活用など、これらの資源の多様な活用方法についても検討します。

(3) 地域の歴史・伝統文化・産業等に関する調査・研究の推進

地域の歴史や伝統文化、産業等を保存・活用し、その価値を伝えるためには、調査・研究の推進が不可欠です。

このため、大学等と連携した地域の歴史や伝統文化、産業等に関する調査・研究を推進するとともに、その研究成果を広く公表する機会の充実を図ります。

また、文化芸術施設や大学等の連携により、文化財のデータベース化や伝統芸能の映像等によるアーカイブ化を検討するなど、地域の歴史や伝統文化、産業等に関する情報の共有と活用を図ります。

7 文化芸術の国内外への発信

(1) 文化芸術に関する情報収集・発信

本市の個性豊かな文化芸術ブランドを形成し、その価値を高めていくには、文化芸術に関する様々な情報が適切に管理され、積極的な発信が行われることが重要です。

このため、文化芸術施設、大学等が連携して、文化芸術に関する人材・団体や文化財

等のデータベース化を図るなど、市内の文化芸術に関する情報の一元化を図ることにより、情報の共有と活用を促進します。

また、SNSをはじめとした多様なメディアを効果的に活用した情報発信を検討し、市内外はもとより全国、世界へ向けた東広島の文化芸術のPRに努めます。

(2) 国内外を対象とした文化交流事業の推進

様々な地域との文化的な交流は、市民が本市の文化芸術の個性と価値を再認識する可能性を拓くとともに、国内外へ本市の文化芸術を発信するきっかけとなり、本市の文化芸術ブランド価値の更なる向上につながります。

本市は、国際的な文化交流の一層の充実を図ることができるポテンシャルを有しています。大学・研究機関等の集積、多数の留学生や外国からの研修生など、国際的な交流を推進する基盤が整っていることから、海外からの芸術家の招聘による文化芸術事業の実施や姉妹都市、友好都市との文化交流の充実などに努めます。

また、文化芸術事業における多言語対応の実施など、文化交流を行うための環境づくりにも努めます。

8 文化芸術を活かしたまちの賑わい創出

(1) 文化芸術を活かした中心市街地の活性化

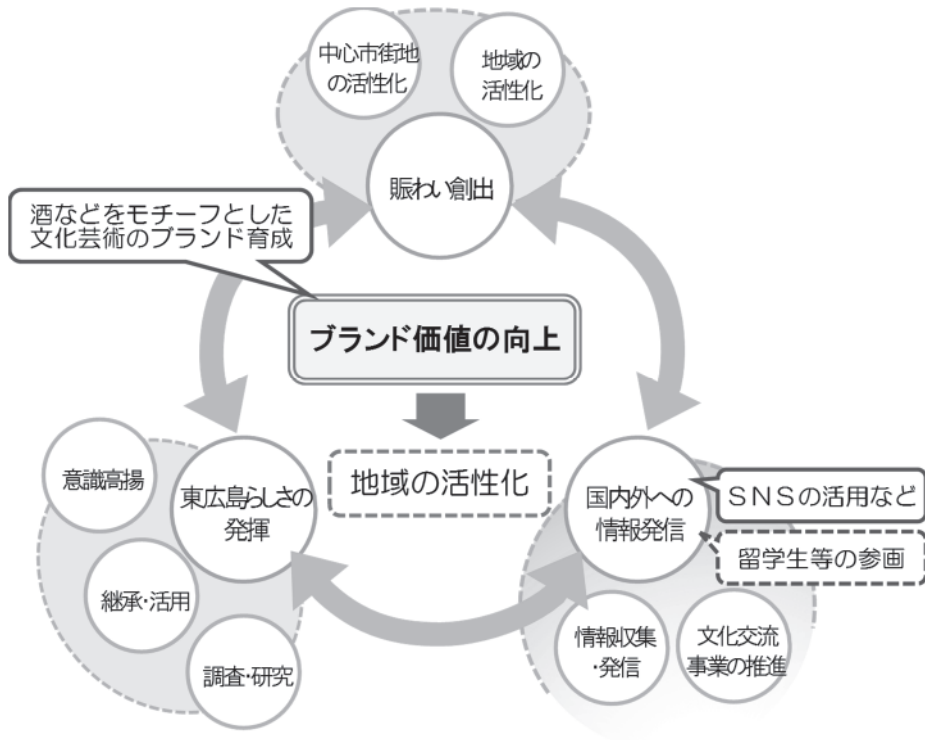
中心市街地において交流する人が増加し、様々な刺激し合うことで、にぎわいを創出し、新たな文化芸術活動の展開へとつなげていくため、酒まつりや酒蔵通りなどで行われているイベントの継承と充実を図るとともに、中核的施設である「くらら」や新美術館における周辺施設との連携強化や中核的施設の多様な活用、周辺環境の整備等を推進し、文化・芸術・交流ゾーン全体の魅力向上を図ります。

(2) 文化芸術と産業による地域の活性化

本市には、瀬戸内海から賀茂台地に広がる豊かな自然に養われた農業や里山・里海の文化、そして酒、西条柿、ジャガイモ、エゴマなどの食文化があります。さらにこうした文化を背景に様々な産業が生まれるとともに、観光や商業などにも刺激を送り続けてきました。

今後の展開として、こうした長い歴史と豊かな自然環境に育まれた様々な文化と産業等の関係に注目し、本市の文化芸術を特徴づける要素を活かしたテーマ性のある観光商品の開発や酒などをモチーフとした文化芸術のブランドの育成を図ることを検討します。

【個性ある文化芸術のブランド形成のイメージ】



基本理念4 「つなぐ ～人が集い、交わり、ひろがる～」の展開

9 文化芸術団体等の連携

文化芸術活動を行う団体同士がつながりを持つことは、お互いに刺激を与え合い、文化芸術活動の更なる活発化や質の向上へとつながります。

このため、文化芸術活動を通じた交流機会を積極的に提供し、団体同士のつながりが強まるような取組を進めます。

また、そのための前提として文化芸術に関わる人材・団体の情報を集約し、関係者・団体と共有することでネットワークの形成を図ります。

10 産学官の連携による文化芸術の活性化

(1) 大学等との連携による文化芸術の振興

本市は、大学をはじめとした学術・研究機関の集積に大きな強みを持っており、こうした大学等との積極的な連携により、学生の力や若い世代のコミュニティ、専門的な人材等を文化芸術の振興に活用していくことが重要です。

このため、文化芸術事業の企画・制作や運営ボランティアへの大学生の参加促進、大学教員等を講師とした文化芸術講座の開催など、大学・大学生との連携強化を図ります。

また、大学等と連携した文化財や地域の歴史に関する調査・研究の推進、文化芸術施設や大学等の連携による文化財や伝統文化に関する情報の共有と活用などに努めます。

(2) 事業者等との連携による文化芸術の振興

本市の文化芸術振興を考える上では、地域経済の担い手である市内の事業者との連携を図ることも重要です。

このため、文化芸術活動を行うサークル活動や文化芸術に関するCSR活動等に対する支援、企業とタイアップした全国レベルの鑑賞事業の実施など、企業による文化芸術活動を促進し、企業等と連携した、多様で質の高い鑑賞機会の提供を検討します。

11 学校と文化芸術団体との連携

学校教育では、子どもたちが身近な地域で活動を行っている文化芸術団体の活動やその成果を知る機会を提供するため、学校行事における団体の発表機会の創出など、団体と連携した文化芸術教育を推進します。

また、子どもたちの文化芸術に対する興味を醸成し、主体的な文化芸術活動を促進するため、それぞれの学校における文化芸術活動の成果を相互に発表する機会を設けるなど、学校同士の連携による文化芸術教育を推進します。

【連携と協働による文化芸術の育成のイメージ】

